

▶▶▶ 宇土市

デマンドバス運行による 交通空白地解消プロジェクト



車両イメージ(写真はミニバス)

分類

まちづくり

<SDGs>関連するゴール



総事業費

4,200千円

寄附目標額 2,800千円

計画期間

2021年4月1日～2023年3月31日

数値目標

●計画運行回数に対する実績運行回数の運行割合……………30%以上

デマンドバスの本格導入に向けて

宇土市中心部から約15km西に位置する網田地区は、高齢化率が46.6%（R1末時点）と市内で高齢者の割合が最も高い地域です。普段の買い物や通院のための移動手段として、以前は定路線型のミニバスを運行していましたが、鉄道や路線バスへの乗り継ぎの不便さから利用率が低迷していたため、平成27年9月に廃止となりました。

このような背景から、網田地区における地域公共交通のあり方を再検討した結果、高齢者などの交通弱者が使いやすく、決められたルート以外でも柔軟かつ細やかなニーズに対応可能な「デマンド型交通」が最も適していると考えました。本事業により、高齢者はもちろん、若い世代が将来にわたり安心してその地域に住み続けられるようなまちづくりを目指しています。

●デマンド型交通とは…

路線ごとに乗降時間や場所が決まっている路線バスと違い、利用者からの予約があった場合に運行を行います。あらかじめ便数や乗降場所を指定することで、ドアtoドアでいつでも行きたいところへ移動できるタクシーと区別しています。

●網田地区移動支援事業（令和2年度実証実験）

デマンド型交通の検討にあたり、令和2年度に実際の運行を想定した実証実験を行いました。実証実験では週3日（火・水・木）1日あたり計5便の運行を約5か月間実施しました。運行時間帯や乗降場所など、実証実験で得られたデータやニーズを本格運行に反映させ、住民ニーズに沿った最適な運行を目指しています。



ここがポイント

住民ニーズを把握するため、実証実験時に地域住民に對しアンケート調査を実施しました。アンケート調査で得られた回答のうち「今後も運行を必要としている」と答えた方が72%とニーズが高いことがわかりました。



実証実験時における住民説明会の様子